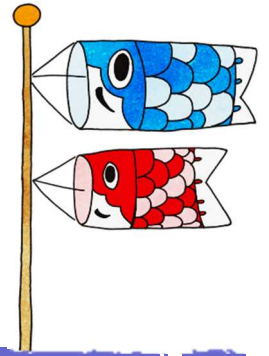




きらら としょかん 



新屋図書館だより

発行：秋田市立新屋図書館

秋田市新屋大川町 12-26 ☎ 018-828-4215

<https://www.city.akita.lg.jp/kurashi/shakai-shogai/1008469/1008848>

No. 255

R5. 5月号

大森山動物園×新屋図書館コラボ企画始まります！

2023年で大森山動物園は開園50周年、新屋図書館は移転開館25周年を迎えます。

「どちらも節目の年でおめでたい！」「それならば、いっそコラボしてしまおう！」

ということで、今年1年を通して、大森山動物園と新屋図書館それぞれを舞台にした

コラボ企画を計画しています。



第1弾は、5月下旬に動物園の中で図書館の本を貸し出す出張図書館と、



読み聞かせボランティア“おはなしのしずく”による出張おはなし会を開催する予定です。



今後の動物園・図書館からの情報をどうぞお見逃しなく！



5月の子ども関連イベント

おはなし会

5月9日(火) 10:30~10:50

たんたん たんぽぽ

~絵本・手遊び~

(おはなしのへや・赤ちゃん~)

5月13日(土) 14:00~14:30

おかあさん

~絵本・手遊び~

(おはなしのへや・幼児~小学生)

フックスタート

5月2日(火)

午前の部：10:30~11:30

午後の部：14:00~15:00

朝のこども としょかんタイム

5月5日(金・祝) 9:00~9:55

新 刊 案 内

飯島風土記 郷土に誇りと愛着を

永木 宏明／編著

飯島地区振興協議会 請求記号 A210.1 (秋田の歴史)

著者が過去に執筆した飯島に関する資料に、遺跡と樹木の情報を加筆し新たに出版した本です。縄文時代から定住者がいた飯島地区。飛び砂と洪水との戦いを経て、農村地帯そして住宅地へと変貌してきた様子が細やかに伝わってきます。



司書さんもビックリ! 図書館にまいこんだ こどもの大質問

こどもの大質問編集部／編

青春出版社 請求記号 015.93 (図書館)

日々、図書館には子どもたちから多くの質問が寄せられます。「魔法が使えるようになるにはどうすればいい?」「動物がなぜしゃべれないのか知りたい。」などなど。素朴で可愛いけれど、難しい質問からはじまる、様々な図書館のレファレンス奮闘記です。



任務 松本清張未刊行短篇集

松本 清張／著

中央公論新社 請求記号 Fマ (短篇集)

全集未収録の短篇から10篇を精選した短篇集です。当時の事件や出来事を反映した作品が目立つ中、自伝「雑草の実」は著者自身を深く掘り下げており、それぞれの作品の背景を知ることができます。没後30年経過した現在でも著者の新たな魅力に気づかされるかもしれません。



おにのしょうがっこう

山田 マチ／作 岡本 よしろう／絵

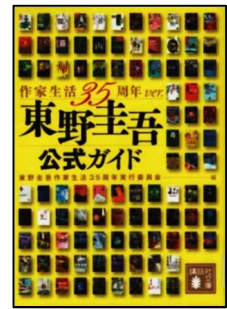
あかね書房 請求記号 91ヤ (読み物) ※小学校1年生ころから

ふたごのおにベニーとルリーは、ピカピカの1年生!新しいとらのパンツをはいて、元気に応仁小学校へ通っています。こくごの時間では、「えんまさま」の命令が書いてあるノートで勉強をしたり、体育では金棒の正しい使い方を習います。人間の学校とは違うおにの学校をのぞいてみましょう!



図書館員（佐藤 奏）のおすすめ本

書名	東野圭吾公式ガイド 作家生活35周年 ver.
著者名	東野圭吾作家生活35周年実行委員会／編
出版社	講談社
所蔵	新屋、イソップ 請求記号 910.26ヒ（作家研究）



日本だけに留まらず、世界でもその人気を誇る東野圭吾。本書は、デビュー作の『放課後』から2020年刊行の『クスノキの番人』までを網羅した公式ガイドブックです。

紹介されている全作品に作者の解説が入っており、執筆の背景や裏話を語っています。中には読んでいて笑ってしまうような「ぼやき」も含まれていて、読み応えたっぷりです。

物語の根幹に触れるネタバレはほとんどないため、何から読めばいいかわからない…という方にもおすすめできます。「加賀恭一郎」「ガリレオ」「マスカレード」といった長編シリーズの特集や、仕事や趣味のスノーボード（私財を投じて本格的な大会を開くほど!）についてのインタビューなど、内容盛り沢山の一冊となっています。

国内累計発行部数1億部を突破した東野ワールドの全貌にふれてみませんか？

図書館員（三浦 きらり）のおすすめ本

書名	きみにありがとうのおくりもの
著者名	宮野 聡子／作・絵
出版社	教育画劇
所蔵	新屋、明德、土崎、イソップ 請求記号 Eミ（絵本）



仕事や家事、育児、勉強…毎日忙しく過ごす方へ。少しでも一息ついてこの絵本を読んでみませんか？

元気なこりすと、のんびりなくまくん。2人はお互いがだいすきでした。こりすは、美味しい野菜が食べられるのはくまくんが大事に育ててくれたおかげと気付きました。くまくんは、お日さまの香りのするシーツに寝られるのは

こりすがきれいに洗ってくれたおかげと気付きました。毎日の感謝の思いを込めて「いつもありがとう」「きみのぜんぶにありがとう」と伝え合い、2人は幸せな気持ちで眠りました。

簡単そうで難しい「ありがとう」を素直に言葉にできる2人の優しさと思いやりに、心があたたかくなる一冊です。自分はもちろん、大切な人に読んであげるのもいいですね。

記事になったお酒の話題あれこれ…地域活性化に一役買う…

今年3月、男鹿市の醸造所「稲とアガベ」が東京のベンチャー企業「NewLocal」社と共同で新会社を設立したと発表しました。酒造りを通じた地域活性化を目的とし、その第一歩として船川地区の空き店舗を活用したホテルの開業を目指しています。さらに鉄工所跡地をジン蒸留所にする計画もあるそうです。

「稲とアガベ」は旧男鹿駅舎を利用して日本酒の技術を用いた新ジャンルの酒造りにも挑戦。お酒をきっかけに地方に若者を呼び込み、人口減少に歯止めをかけたい考えです。

男鹿市が新屋のような醸造の街になる日も近いかもしれませんね。

新屋は、醸造の街。
新屋図書館には、酒の
資料コーナーがあります。

【参考資料】

朝日新聞

2023年3月23日

今、あなたへ…みんなであそぼう…

5月5日はこどもの日。連休を利用した帰省などで、世代をまたいだ交流をする方も多いのではないのでしょうか。今回は大人も子どもも一緒に楽しめるような遊びに関する本を紹介します。

『昭和の子どもとお店屋さん』（高部 晴市ほか、佼成出版社）では、絵本作家である著者が生まれ育った昭和30年代の商店街の様子を、自身のイラストと、ルポライターである著者の弟の詩で紹介しています。昔ならではの光景やモノについては著者による解説もあり、当時の文化の理解にも役立ちます。

『学年誌が伝えた子ども文化史』シリーズ（小学館）では、小学館が発行していた学年別学習雑誌の誌面から、昭和のさまざまな重大ニュースや、当時の小学生のブームなどの子ども文化を振り返ります。

昔を思い出して懐かしくなってきた大人の方は、お子さんやお孫さんと一緒に『いっしょにあそぼ 草あそび 花あそび 春夏編』（佐藤 邦昭／著、かがわ出版）『だるまちゃんと楽しむ 日本の子どものあそび読本』（加古 里子／著、福音館書店）を見ながらいろいろな遊びにチャレンジしてみたいかがでしょうか？



図書館員のひとりごと

4月より新屋図書館に配属となりました佐々木禎子（よしこ）と申します。小鳥のさえずりと美しい桜並木に迎えられ、故郷の角館を思い出しながら通勤しています。歴史ある新屋の町並みや、美大生のクリエイティブな活動など、知りたいこと・楽しみなことがいっぱいです！

今年度の新屋図書館は、大森山動物園とのコラボ企画など様々な行事を予定しております。どうぞご家族で図書館へおいでください。

（佐々木）

新屋駅から徒歩10分。毎朝、桜並木や見慣れない町並みに目を奪われていると、あっという間に新屋図書館に到着します。まだまだ慣れない通勤時間は、小さな発見の連続で、とても楽しい時間になっています。ただ、夏の暑さや冬の寒さには、今から少し怖さも…。

はじめまして、この春から新屋図書館で働くこととなりました。慣れないことが多く右往左往していますが、新屋の歴史や文化を学びながら、頑張りたいと思います。これから、よろしくお願ひいたします。

（内藤）